

特集 J-BAC認定 アルコール検知器



2023年12月から一定台数の白ナンバー車（非営業・自家用車両）を保有する事業所を対象に「アルコール検知器を使用した運転前後の検査」が義務付けられている。数多くある製品の中から、どのような製品を選べばよいのか、頭を悩ます事業者は多いのではないだろうか。

アルコール検知器 どれを選ぶ？

アルコール検知器メーカー59社（26年7月時点）でつくる「アルコール検知器協議会」（J-BAC、酒井規光会長）では、第三者機関による高い品質・精度を持った機器を認証する「アルコール検知器認定制度」を運用展開することにも適切な使用方法に対する普及啓もうに取り組み、これからアルコール検知器を導入する事業者にとって「J-BAC認定アルコール検知器」は間違いない選択肢の一つとなる。

体制整備急務だが
事業所単位で5台以上、または乗車定員11人以上の車両1台（大型自動車1輪、普通自動車2輪は0.5台として計算）の白ナンバー車両を保有する場合、アルコール検査の対象となる。合わせて

安全運転管理者制度における管理者の選任が必要となる。管理者には視認と検査器による酒気帯びの有無の確認や検査実施と計測結果の記録（1年間）が求められる。

酒気帯び運転で検挙された場合、数値によっては3年以下の懲役、または50万円以下の罰金が科せられる。何よりも尊い人命を守る観点からも間違いのない確実な検査を実施できる体制づくりが急務だ。

誤認知を防ぐために
アルコール検知器はセンサーの劣化や口内の残留物に伴い、誤った検知内容を示すことがある。誤検知により本来運転させることができないドライバーに運転させてしまう可能性はゼロではない。逆の計測結果により運転させることができず、業務効率を阻害してしまうことも想定し得る。確実な検査を実施するため、信頼性の高い検知器を導入することも、その定期的な買い替えが必要だ。

J-BAC認定検知器は、J-BAC会員メーカー事業者製であることが条件。そしてメーカー事業者に課す入会条件は「国内自社拠点に品質管理が行える施設を保持」し、「販売時やメンテナンス時に適切なアドバイスが行えること」としている。そのハードルは高く、機器の信頼性の高さを裏付ける。

安全運転管理者制度における計測結果の記録について、手書きでも可能だが、業務効率の観点から管理システムを導入を検討する事業者は多い。J-BAC会員メーカーの検知器もシステム連携を前提としたものが多く、管理システムそのものも提供している。

第三者機関が品質認証

「間違いのない選択肢」の一つ

安全運転管理者制度における管理者の選任が必要となる。管理者には視認と検査器による酒気帯びの有無の確認や検査実施と計測結果の記録（1年間）が求められる。

酒気帯び運転で検挙された場合、数値によっては3年以下の懲役、または50万円以下の罰金が科せられる。何よりも尊い人命を守る観点からも間違いのない確実な検査を実施できる体制づくりが急務だ。

誤認知を防ぐために
アルコール検知器はセンサーの劣化や口内の残留物に伴い、誤った検知内容を示すことがある。誤検知により本来運転させることができないドライバーに運転させてしまう可能性はゼロではない。逆の計測結果により運転させることができず、業務効率を阻害してしまうことも想定し得る。確実な検査を実施するため、信頼性の高い検知器を導入することも、その定期的な買い替えが必要だ。

J-BAC認定検知器は、J-BAC会員メーカー事業者製であることが条件。そしてメーカー事業者に課す入会条件は「国内自社拠点に品質管理が行える施設を保持」し、「販売時やメンテナンス時に適切なアドバイスが行えること」としている。そのハードルは高く、機器の信頼性の高さを裏付ける。

安全運転管理者制度における計測結果の記録について、手書きでも可能だが、業務効率の観点から管理システムを導入を検討する事業者は多い。J-BAC会員メーカーの検知器もシステム連携を前提としたものが多く、管理システムそのものも提供している。

確実に高い信頼

携を前提としたものが多く、管理システムそのものも提供している。

高まる社会的な要請

白ナンバーに対するアルコール検査義務化の動きは21年6月、千葉県八街市で発生した「八街児童5人死傷事故」に端を発する。白ナンバートラックドライバーによる飲酒運転で、未だある子どもたちの命が一瞬で奪われた痛ましい事故として記憶に新しい。

足元では今年9月から生活道路における上限速度が時速30kmに定められるなど交通安全に対する社会的機運は高まりをみせている。飲酒運転根絶に向けた車両を使用するすべての事業者に対する社会的要請もまた今後ますます大きなものになりそうだ。

DRACHE(ドラチェ) アルコール検知システム

新東工業のアルコール検知器はJ-BAC認定機器のなかでは最小・最軽量で、キーホルダーとして自宅や車の鍵に付けて持ち運べる。スマートフォンに有線接続し使用する仕様のため、充電などの手間が省けるなど利便性の高さが好評価を得ている。

温度・湿度管理・鮮度
管理が徹底された環境のもとで製造。最小・最軽量ながら高い信頼性を発揮

検知器のサイズは60×27×12mm。重量は12g。センサー方式は半導体ガス式を採用。最小・最軽量ながら、その精度と品質の高さは折り紙付きだ。

同社の創立は1934年、自動車産業をはじめとする製造業向けに設備を供給する企業として、品質とものづくり技術を磨いてきた。

こうした品質重視の思想はアルコール検知器にも受け継がれている。製品は温度・湿度が管理された専用施設で製造され、徹底した品質管理のもとで出荷される。

アルコール検知器はセンサーの経年劣化を避けるために、同社では鮮度管理が重要な「なまもの」と位置付け、購入後1年または2000回の使用を上限として、販売時には、店頭での長期保管や保管環境の管理を、同社事業推進本部アルコール検知事業グループ

の長坂政彦氏は「DRACHEの特長は、現場での使いやすさと管理者の負担軽減を両立できるという、見やすい管理画面と直感的な操作性にこだわった」と話し、自信を覗かせる。

企業文化「安全と健康はすべてに優先する」のもとで拡販に注力
もともと同社では介護施設で働く介護職員の負担軽減と入所者の尊厳を守ることを目的に、排泄を直ちに感知するセンサーと管理ソフトの開発・製品化に取り組んできた経緯がある。DRACHEは、こうした取り組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。

飲酒運転による悲惨な事故と過度な飲酒による健康被害が社会課題となるなか、新東工業は「安全と健康はすべてに優先する」という企業文化の力を入れる方針だ。

詳細はQRコードから問い合わせ可能。



DRACHEを導入することで、使用上限に達した場合、スマートフォンやPCを通じて交換を促す。もちろん、DRACHEを組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。

と品質の高さは折り紙付きだ。

同社の創立は1934年、自動車産業をはじめとする製造業向けに設備を供給する企業として、品質とものづくり技術を磨いてきた。

こうした品質重視の思想はアルコール検知器にも受け継がれている。製品は温度・湿度が管理された専用施設で製造され、徹底した品質管理のもとで出荷される。

アルコール検知器はセンサーの経年劣化を避けるために、同社では鮮度管理が重要な「なまもの」と位置付け、購入後1年または2000回の使用を上限として、販売時には、店頭での長期保管や保管環境の管理を、同社事業推進本部アルコール検知事業グループ

の長坂政彦氏は「DRACHEの特長は、現場での使いやすさと管理者の負担軽減を両立できるという、見やすい管理画面と直感的な操作性にこだわった」と話し、自信を覗かせる。

企業文化「安全と健康はすべてに優先する」のもとで拡販に注力
もともと同社では介護施設で働く介護職員の負担軽減と入所者の尊厳を守ることを目的に、排泄を直ちに感知するセンサーと管理ソフトの開発・製品化に取り組んできた経緯がある。DRACHEは、こうした取り組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。

飲酒運転による悲惨な事故と過度な飲酒による健康被害が社会課題となるなか、新東工業は「安全と健康はすべてに優先する」という企業文化の力を入れる方針だ。

詳細はQRコードから問い合わせ可能。

と品質の高さは折り紙付きだ。

同社の創立は1934年、自動車産業をはじめとする製造業向けに設備を供給する企業として、品質とものづくり技術を磨いてきた。

こうした品質重視の思想はアルコール検知器にも受け継がれている。製品は温度・湿度が管理された専用施設で製造され、徹底した品質管理のもとで出荷される。

アルコール検知器はセンサーの経年劣化を避けるために、同社では鮮度管理が重要な「なまもの」と位置付け、購入後1年または2000回の使用を上限として、販売時には、店頭での長期保管や保管環境の管理を、同社事業推進本部アルコール検知事業グループ

の長坂政彦氏は「DRACHEの特長は、現場での使いやすさと管理者の負担軽減を両立できるという、見やすい管理画面と直感的な操作性にこだわった」と話し、自信を覗かせる。

企業文化「安全と健康はすべてに優先する」のもとで拡販に注力
もともと同社では介護施設で働く介護職員の負担軽減と入所者の尊厳を守ることを目的に、排泄を直ちに感知するセンサーと管理ソフトの開発・製品化に取り組んできた経緯がある。DRACHEは、こうした取り組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。

飲酒運転による悲惨な事故と過度な飲酒による健康被害が社会課題となるなか、新東工業は「安全と健康はすべてに優先する」という企業文化の力を入れる方針だ。

詳細はQRコードから問い合わせ可能。

と品質の高さは折り紙付きだ。

同社の創立は1934年、自動車産業をはじめとする製造業向けに設備を供給する企業として、品質とものづくり技術を磨いてきた。

こうした品質重視の思想はアルコール検知器にも受け継がれている。製品は温度・湿度が管理された専用施設で製造され、徹底した品質管理のもとで出荷される。

アルコール検知器はセンサーの経年劣化を避けるために、同社では鮮度管理が重要な「なまもの」と位置付け、購入後1年または2000回の使用を上限として、販売時には、店頭での長期保管や保管環境の管理を、同社事業推進本部アルコール検知事業グループ

の長坂政彦氏は「DRACHEの特長は、現場での使いやすさと管理者の負担軽減を両立できるという、見やすい管理画面と直感的な操作性にこだわった」と話し、自信を覗かせる。

企業文化「安全と健康はすべてに優先する」のもとで拡販に注力
もともと同社では介護施設で働く介護職員の負担軽減と入所者の尊厳を守ることを目的に、排泄を直ちに感知するセンサーと管理ソフトの開発・製品化に取り組んできた経緯がある。DRACHEは、こうした取り組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。

飲酒運転による悲惨な事故と過度な飲酒による健康被害が社会課題となるなか、新東工業は「安全と健康はすべてに優先する」という企業文化の力を入れる方針だ。

詳細はQRコードから問い合わせ可能。

と品質の高さは折り紙付きだ。

同社の創立は1934年、自動車産業をはじめとする製造業向けに設備を供給する企業として、品質とものづくり技術を磨いてきた。

こうした品質重視の思想はアルコール検知器にも受け継がれている。製品は温度・湿度が管理された専用施設で製造され、徹底した品質管理のもとで出荷される。

アルコール検知器はセンサーの経年劣化を避けるために、同社では鮮度管理が重要な「なまもの」と位置付け、購入後1年または2000回の使用を上限として、販売時には、店頭での長期保管や保管環境の管理を、同社事業推進本部アルコール検知事業グループ

の長坂政彦氏は「DRACHEの特長は、現場での使いやすさと管理者の負担軽減を両立できるという、見やすい管理画面と直感的な操作性にこだわった」と話し、自信を覗かせる。

企業文化「安全と健康はすべてに優先する」のもとで拡販に注力
もともと同社では介護施設で働く介護職員の負担軽減と入所者の尊厳を守ることを目的に、排泄を直ちに感知するセンサーと管理ソフトの開発・製品化に取り組んできた経緯がある。DRACHEは、こうした取り組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。

飲酒運転による悲惨な事故と過度な飲酒による健康被害が社会課題となるなか、新東工業は「安全と健康はすべてに優先する」という企業文化の力を入れる方針だ。

詳細はQRコードから問い合わせ可能。

と品質の高さは折り紙付きだ。

同社の創立は1934年、自動車産業をはじめとする製造業向けに設備を供給する企業として、品質とものづくり技術を磨いてきた。

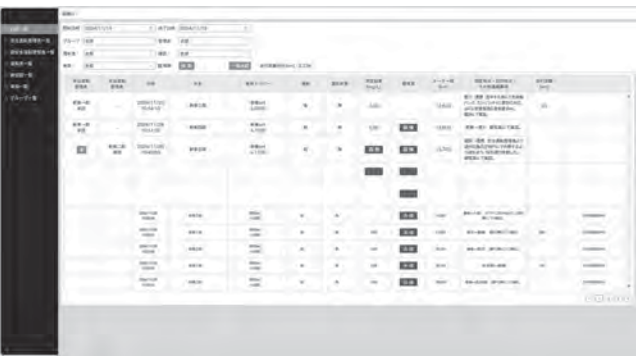
こうした品質重視の思想はアルコール検知器にも受け継がれている。製品は温度・湿度が管理された専用施設で製造され、徹底した品質管理のもとで出荷される。

アルコール検知器はセンサーの経年劣化を避けるために、同社では鮮度管理が重要な「なまもの」と位置付け、購入後1年または2000回の使用を上限として、販売時には、店頭での長期保管や保管環境の管理を、同社事業推進本部アルコール検知事業グループ

の長坂政彦氏は「DRACHEの特長は、現場での使いやすさと管理者の負担軽減を両立できるという、見やすい管理画面と直感的な操作性にこだわった」と話し、自信を覗かせる。



DRACHEを導入することで、使用上限に達した場合、スマートフォンやPCを通じて交換を促す。もちろん、DRACHEを組みで培ったセンサー技術やクラウド管理技術を活用して開発された。



新東工業株式会社

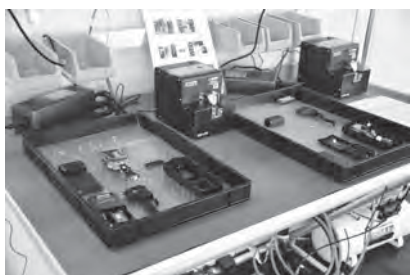
愛知県名古屋市中村区名駅3丁目28番12号



CAX-AD150 CAX-AD300

「CAX-AD150」は半導体ガスセンサーを採用。使用回数は2000回としており、主に個人での保管・使用を想定したモデル。

使用期間・回数をカウントすることで使用期限が近づいた検知器個体の情報を知らせる機能も備わる。さらに管理項目が充実した他



再生事業センターの様子。出荷前のセンサーチェックも実施する

KENWOOD CAXシリーズ
株式会社 JVCケンウッド

神奈川県横浜市
神奈川区守屋町三丁目12番地



社システムとの連携も可能だ。

専用相談窓口でユーザーの困りごとに対応

同社では法人客向けに「JVCケンウッドアルコール検知器専用窓口」を設け、企業単位だけではなく、使用する個人からの困りごとにも対応する体制を整え、導入事業者からは「管理部門の負担軽減につながる」と好評を得ている。

また、2023年に開設した「再生事業センター」で使用済みアルコール検知器の再資源化を通じて、資源循環と環境負荷低減に取り組む、液晶パネルや回路を再利用するなど、SDGsの観点からも高く評価されている。

詳細はQRコードから問い合わせ可能。